

聖マリアンナ医科大学病院



施設背景・特徴、診療状況など

- 神奈川県川崎市にある大学病院で、「生命の尊厳を重んじ、病める人を癒す愛ある医療の提供」を理念として掲げている。
- **大学病院、特定機能病院**として高度かつ先進的な医療を提供するとともに、**地域の基幹病院**として近隣の医療施設との連携体制も整えている。
- がん診療においては、**2007年に設立された腫瘍センター**で「外来化学療法」、「緩和ケアチームの組織・活動」、「がん相談支援センター・がんサロンの運営」、「院内がん登録」が行われている。



AYA支援チームの成り立ちとチーム構成職種

●チームの成り立ち（特色、目標）

当院で治療中、治療後のAYA世代がん患者が直面する不安や悩み、課題に対し、真摯に向き合いともに悩み、多角的な支援や情報を提供できるチームを目指す。

腫瘍センター内にAYA部会としてチームの拠点を置き、診療科や職種を超えた横断的な支援をしていく。（次頁参照）

大学病院ならではの診療科・職種の多さが特色である。

●チーム構成職種（コアメンバー）

医師

－腫瘍内科、小児科、産婦人科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、神経精神科、小児外科

看護師

－がん化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師、不妊症看護認定看護師

乳がん看護認定看護師

薬剤師、その他の専門職

－腫瘍センター薬剤師、小児・乳腺・婦人科病棟薬剤師

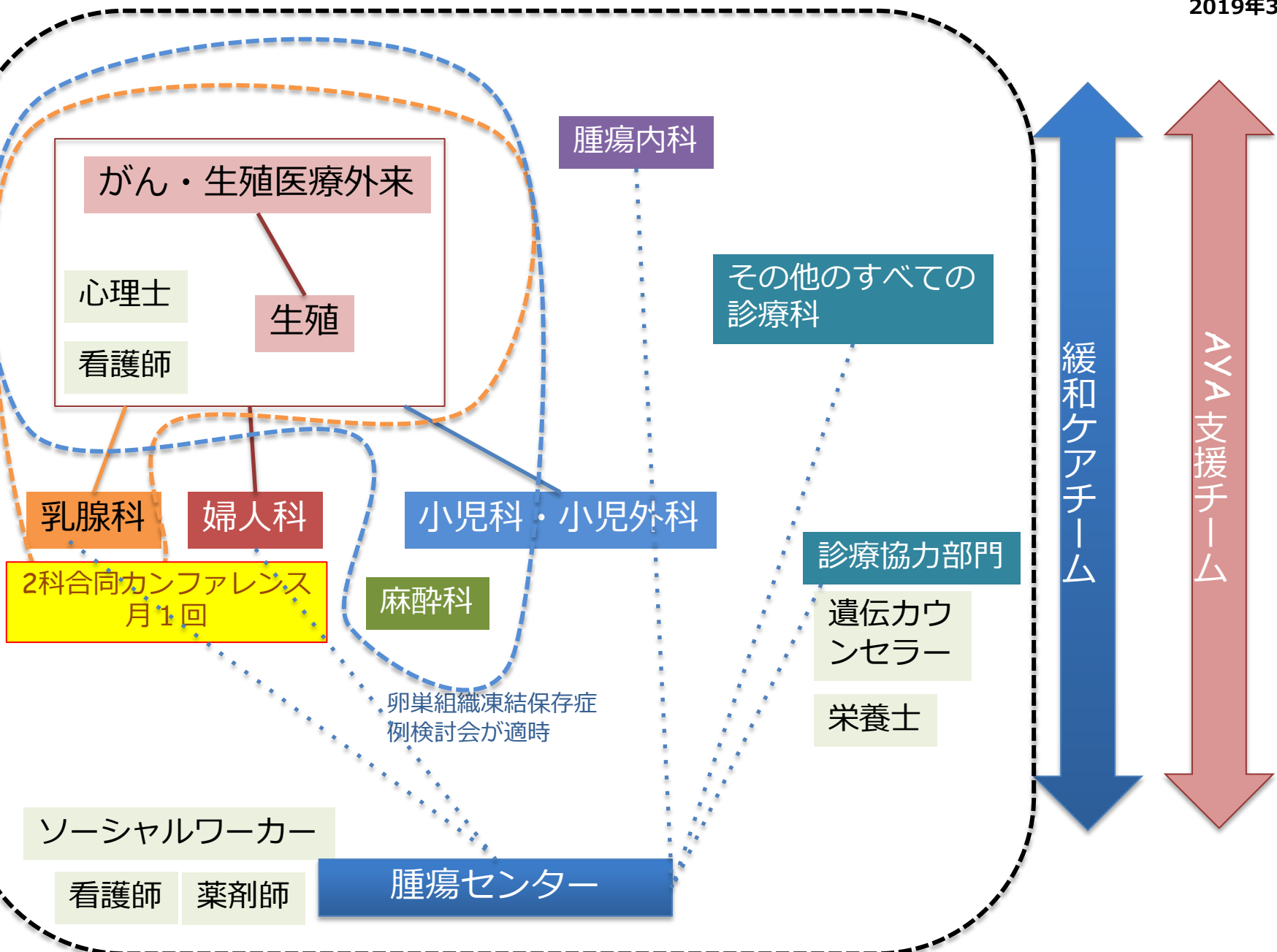
－栄養士、臨床心理士、遺伝カウンセラー

ソーシャルワーカー

－腫瘍センター専属、メディカルサポートセンターがん担当、小児担当の計3名

事務

－腫瘍センター事務



AYA世代がん支援：聖マリアンナ医大病院の実際

主な活動

- ・ 現在行っている活動
 - AYAがんについての認知度、診療状況、支援の実態に関する調査
(全診療科にアンケートを実施)
 - 定期ミーティングの開催 (2019年1月より)
 - 院内勉強会、講演会の企画、開催 (妊孕性支援セミナーなどを開催)
 - 妊孕性温存治療の中心施設として情報発信、講演会
- ・ 近日開始予定の活動
 - 院内AYAがん患者拾い上げシステムの構築についての模索、検討
 - スクリーニングシート運用についての模索、検討
 - AYA支援チームの院内周知
(職員向け、患者さん向けにポスターやリーフレットを作成)